

## ■第15回日本山岳耐久レース総括

第15回日本山岳耐久レース(24時間以内)~長谷川恒男CUP大会大変お疲れ様でした。

前日の雨も上がり素晴らしい秋晴れのレース日和りの中、総勢2003名が出走いたしました。完走者は1540名完走率76%にて終了いたしました。しかし今大会は15年目にして初めての死亡事故を出してしまいました。参加の選手が午後11過ぎに小河内峠の先46km地点の登山道から足を踏み外し奥多摩湖側へ180メートル転落し、亡くなりました。40歳の男性で日本山岳耐久レース長谷川CUPは初出場でしたが大学山岳部出身の山のベテランで今大会においても42kmの第2関門のでは9時間20分代で走りこのままいけば200~400番代に入るかも知れなかったかなり優秀なトレイルランナーでした。40歳の円熟期を迎え山岳のみならず社会におけるさらなるご活躍を想うと心痛の思いでいっぱいです。この大会を始めて15年目にして初めて味合う体験は15年目の気のゆるみから起こった事象かと、心から反省しています。原因究明には社団法人東京都山岳連盟の総力をあげ傘下の遭難救助委員会や救助隊の協力の下、原因追及の為の研究作業を進め今後この種の大会における事故の無い方向性を見出したいと想っています。

亡くなられた男性のご家族対策、地元へのご挨拶まわりなどは主催団体である社団法人東京都山岳連盟で滞りなく行っています。

大会を支えたあきる野市を初めとする協力団体やスポンサー、多くの山岳会の皆様には心から御礼申し上げます。

大会の主会場の奥多摩の山々への感謝の気持ちをこめた来週の清掃山行は予定どうりおこないますのでご協力よろしく御願いたします。

今回の大会中に起こった事故の責任を想い活動の自粛の意味から、11月1日のファイナルパーティーは中止いたしますのでご容赦下さい。

最後に亡くなられた方のご遺族のご希望から名前を一切公表しないでくださいとの要望で名前の公表は差し控えることをご容赦下さい。

共に山を愛し続けた山岳アスリートに心からご冥福をお祈り申し上げます。

社団法人東京都山岳連盟 日本山岳耐久レース委員会委員長 宮地 由文